

16 小児の歯科治療を円滑に行うための  
母親と小児に対するアプローチについて

○春岡龍男、名越恭子\*、中島龍市\*、  
渡辺 博\*、木村光孝\*

はるおか歯科・小児歯科、九歯大・小児歯\*

小児歯科の臨床においては成人の治療に比べ、様々なトラブルが起りやすい。そのため、多くの配慮と説明が必要である。しかしながら、その対処が小児と母親に対し、ただでさえ多様な小児の治療に対し、時間的、内容的な制約を持ってしまふことが多く思われる。

そこで、十分なコミュニケーションを保ちながらも、限られた時間の中で、より多くの成果を要求される治療の現場においては、小児とその母親に対し、治療に対する説明、理解を得るための様々なアプローチが必要であろう。そして、それは十分に合理的なものが求められる。演者らは小児の治療が安全にかつ円滑に行われるよう、小児と、その保護者に対し、様々なアプローチを行っている。幾つかを紹介し、更により良いものとするため考えてみたい。

今回は、治療そのものの小児の治療を行う上での情報を得る問診や諸検査などの一個人に対する重要なコミュニケーションの部分はテーマから外し、あくまで、多数の患者に対し、共通の理解を得るための手段としての様々な方法を模索した。掲示物や、説明書、または、待合室でのビデオなどのメディアに頼り、あえて、診療中には口頭ではその補足にとどめ、簡潔に説明を行い得るように勤め、母親、保護者の反応を見た。

まとめ：このようなシステムで行うと、えてして冷たい治療の雰囲気となりやすいと思われるが、実際、診療室の治療時間の短縮が確認された。また、治療の雰囲気が、あくまで口頭によるコミュニケーションよりメディアによるものが相対的には多くの理解が得られた。しかしながら、信頼関係を得るためより多くの対話を求める希望も保護者から感ぜられるようになった。今後さらに良い信頼関係を持ち、治療の成果をより良いものにするため考えてみたい。